森のテクノ

NO.109
秋　号
2025.10.15

津野町役場　新庁舎

目　次

●林業の担い手確保に向けた取組について　1
高知県林業振興･環境部　森づくり推進課長　中城　秀樹

●「南海地震に備える」　3
高知大学名誉教授･高知大学防災推進センター　客員教授　岡村　眞

●中央東林業事務所森林土木担当に在籍して　5
高知県中央東林業事務所　森林土木課　主査　齊藤　翼

●令和7年度　民有林森林土木優良工事コンクール・林道維持管理コンクール・森林土木工事木材使用設計コンクールの審査について　7
審査委員長
高知県林業振興・環境部　治山林道課長　中屋　貴

●令和7年度(一社)高知県山林協会通常総会開催　9
(一社)高知県山林協会　総務部長　吉村　龍男

●第25回　森や自然についての子ども達の作文コンクール　12
審査委員長　高知新聞社　営業局長　塩見　俊久

●テクノ　ア・ラ・カルト
ー身近なテクノ(左脳　右脳)ー　19
(一社)日本森林技術協会　高知事務所長　長澤　佳暁

●県立甫喜ヶ峰森林公園から　21
指定管理者（一社）高知県山林協会　川渕　しのぶ

●動　向　23

林業の担い手確保に向けた取組について

高知県林業振興・環境部　森づくり推進課長　**中　城　秀　樹**

皆様には、日ごろから本県の森林・林業・木材産業行政の推進にご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、本県の推計人口は、本年８月１日現在、約 64 万６千人と令和元年に 70 万人を下回って以降も減少が続き、市町村の中には、年間の出生数が１桁という団体も現れるなど、大変厳しい状況にあります。

県では、人口減少問題への対応を最重要課題と位置付け、若者の所得向上や、共働き・共育てのさらなる推進など、一連の施策を抜本強化することでその克服に向けた取組を推進することとしています。

特に若者の所得向上については、本年度、知事の指示の下、産業分野別に若者所得向上検討チームを設置のうえ、個々の課題を分析し強化策の検討等を進めているところです。林業分野については、他の産業分野に先んじて４月から検討をスタートし、本年度中に来年度の強化策を決定することとしています。

林業分野においては、「緑の雇用」などの就業支援制度の活用に加え、雇用情報の収集・提供や林業就業への相談対応などを継続的に実施してきたこともあって、ここ数年の就業者数は 1,600 人前後で推移しています。

しかし、令和５年度の県調査結果では、就業者の年齢構成は 60 歳代以上の割合が４割を占める一方、30 歳代以下の割合は２割程度にとどまり、平均年齢も 54.5 歳と、10 年前の 50.7 歳から上昇傾向にあるため、新たな担い手の確保が喫緊の課題となっています。

こうした中、県では第５期産業振興計画の林業分野において、「多様な担い手の育成・確保」を柱の１つに掲げ、若者などをターゲットとした取組を展開しています。

具体的には、林業に関心がある方を対象にした、実際に林業現場で活躍されている方とのトークセッションなどにより高知県での林業就業の魅力を伝える「こうちフォレストスクール」を開催するほか、移住希望者など幅広い層への PR を実施するため、林業と趣味移住をテーマとした情報発信にも取り組んでいます。

こうした情報発信とあわせて、更なる就業促進に向けて林業職場の魅力を高める取組を進めています。

具体的には、林業事業体における職場内のコミュニケーション力の向上や、育休・産休制度の導入などに向けた就業規則の見直し、就業者の昇任・昇給ルールの明確化などを支援することにより、若者をはじめ多様な人材にとって林業が魅力的と感じてもらえる職場環境の改善に取り組んでいます。

また、林業就業を目指す方々に知識と技術を身につけていただくため、林業大学校では、林業技術者の育成に取り組んでいます。

■高知県立林業大学校

平成 27 年４月に「高知県立林業学校」として先行開校してからの 10 年間で、約 230 人（林業、木造設計の合計）の研修生が卒業し、林業事業体などで活躍しています。

現在、令和８年度の入校生を募集していますので、林業に興味を持たれている方がいらっしゃいましたら、当校への入校をご紹介いただけましたら幸いです。

林業は、森林の手入れや木材の生産を通じて、豊かな自然と人々の暮らしを支える重要な産業です。豊かな森林資源を守り、未来へと繋ぐため、皆様のご協力をいただきながら、林業の振興に取り組んでまいりますので、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

林業・木造建築を学ぶ、プロに導く。

高知県立林業大学校 令和8年度 研修生募集

基礎課程 定員20名

林業技術や林業機械の操作、森林路網の開設など、
フィールドワークが約7割を占め、即戦力となる人材を育成します。

取得できる修了証（技能講習・安全教育）

林業分野に就業する上で必要な下記の14の特別教育及び技能講習修了証を研修期間内に取得できます。

- 伐木等の業務に係る特別教育修了証
- 刈払機取扱作業者安全衛生教育修了証
- 車両系建設機械運転技能講習修了証
- フォークリフト運転技能講習修了証
- 小型移動式クレーン運転技能講習修了証
- 玉掛け技能講習修了証
- 不整地運搬車運転技能講習修了証
- 走行集材機械運転業務特別教育修了証
- 伐木等機械運転業務特別教育修了証
- 簡易架線集材装置等運転業務特別教育修了証
- はい作業従事者安全教育修了証
- 機械集材装置運転業務特別教育修了証
- 赤十字ベーシックライフサポーター認定証
- 狩猟免許（わな猟免許）

専攻課程 定員30名（各コース10名）

大学教授や各分野の第一線で活躍する講師による
充実した授業で最先端の技術や知識が身につきます。

森林施業のプランナーへ 森林管理コース

森林GISの活用方法や森林施業プラン書の作成技術などを習得した、林業経営の中核を担う人材を養成します。

林業現場のエキスパートへ 林業技術コース

高性能林業機械のメンテナンスや架線技術などを習得した、林業技術のエキスパートを養成します。

木造建築のプロフェッショナルへ 木造設計コース

国内でも数少ない木造に特化したカリキュラムにより、住宅から中大規模木造までプロデュースできる木造建築のスペシャリストを養成します。

年　齢	18歳以上（令和8年4月1日時点で）
研修期間	1年（1,200時間程度）
研修料	年額130,680円（税込）

※森林管理コース、林業技術コースの年齢は19歳以上

※別途、教科書・安全防具・作業着などの購入経費200,000円程度

支援制度も充実！ 最大165万円（年間）を給付

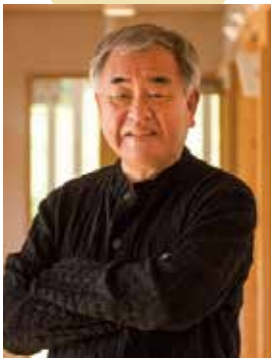
高知県立林業大学校では、最大165万円（年間）の給付金を支給する支援制度を整備しており、
安心して研修に専念することができます。

※給付金制度には支給要件があります。詳細については、お問い合わせいただくか、ホームページ「高知県緑の青年就業準備給付金事業について」をご覧ください。

就職も全力でサポート！ 就職率100%

就職についても研修生ひとり一人の希望に合わせてきめ細かな就職支援を実施。インターンシップによる職場体験なども積極的に行い、全ての卒業生が、林業及び木造建築関係の仕事に就くことができました。

校長は世界的建築家 隈研吾氏！



募集日程

選考区分		申請期間	選考日
推　薦（2回目）		令和7年 10月16日㈭～11月14日㈮	11月29日㈯
一　般	1回目	8月25日㈪～ 9月19日㈮	10月 5 日㈰
	2回目	10月16日㈭～11月14日㈮	11月29日㈯
	3回目	12月22日㈪～ 1月16日㈮	1月31日㈯
	4回目（郵送） （持参）	令和8年 2月 9 日㈪～ 2月27日㈮ 2月 9 日㈪～ 3月11日㈬	3月15日㈰

※一般選考の3～4回目はそれまでに実施した選考試験で合格者が募集人員に達した場合は実施しません。

高知県立林業大学校 Tel.0887-52-0784 Fax.0887-52-0788
〒782-0078 高知県香美市土佐山田町大平80　https://kochi-forestry.ac.jp　E-mail:030208@ken.pref.kochi.lg.jp

高知県立林業大学校 検索

インスタグラムもチェック！
研修の様子などを紹介します

「南海地震に備える」

高知大学名誉教授・高知大学防災推進センター　客員教授　岡　村　　眞

長期化する余震活動

大きな地震が発生すると余震は、長期間にわたり発生し続けます。余震は英語では After shock（アフターショック）と言い、突然発生した主震（Main shock、メインショック）に続く、同じ震源域もしくは震源域の周辺で発生する、より小さな地震を指します。

2011 年 3 月に発生した東北地方太平洋沖地震（M9.0）では、この余震がほぼ 10 年間、発生し続けました。主震から 10 年を経て、10 年前と同じこのレベルに落ち着いてきたことから、余震というのはもう止めよう、となりました。このように大きな規模の地震が発生すると、必ず余震が続きます。ただ、規模の小さな地震、多くはマグニチュードが 6.5 以下では、何が本震か余震かがわかりにくい地震もあります。それは能登半島で昨年 1 月の本震（M 7.6）までの数年間にわたる地震であったり、現在も小さい規模の地震が多発してきた奄美群島区の悪石島周辺でも見られます。

海溝型の南海トラフ地震では東北地方と同じことが起きます。

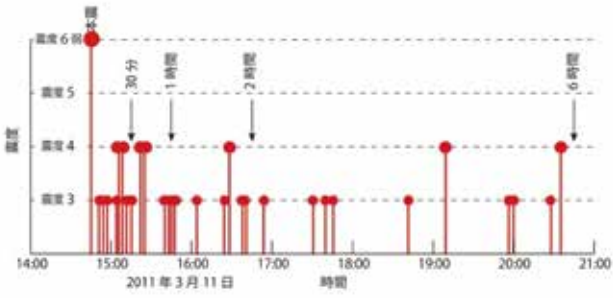


図 1．宮城県気仙沼赤岩（港）における 2011 年東北地方太平洋沖地震の本震（3 月 11 日 14 時 46 分）から 6 時間以内に発生した余震（震度 3 以上）の震度と発生時間（気象庁データより）。

この図に示すように、東北地方太平洋沖地震の際の宮城県気仙沼市では、震度 3 以上の余震が 30 分で 8 回、1 時間以内では 13 回、2 時間以内で 19 回、6 時間では 29 回発生しています。地震発生直後は津波を避けるために高台へ避難しなければなりませんが、その間絶え間なく余震が発生し続けていることを覚悟しなければなりません。

さらに余震の揺れが、本震よりも強い地点がある地震もあります。2011 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震では、4 月 7 日に発生したマグニチュード 7.2 の余震がより陸側で発生したために、沿岸の多くの地域では本震よりも強い揺れを観測しました。

余震の数は時間が経てば対数的に減っていきますが、南海地震のような高知県の直下まで震源域となるような巨大地震では余震は 10 年以上続くと思っておいてください。

図 2．2011 年東北地方太平洋沖地震から 3 年間以内で発生した余震のうち、震度 1 以上を観測した地震の月別発生個数（気象庁データより）。

南海トラフ地震後の道路啓開と救援活動の遅れ

地震後の救援活動で最も重要なインフラが道路網です。東北地方太平洋沖地震では、震源から遠く大きな被害を免れた東北自動車道が、その後の被災地救援活動に大きな役割を果しました。高知大のチームは、内閣府調査団の一員として地震後 1 週間、1 ヶ月後、さらに 3 ヶ月後に現地に入りました。そこでは自衛隊の車両と緊急車両の活動で、この東北地方中軸の自動車専用道は大きな役割を果たしました。

一方、三陸の沿岸地域を海沿に縦貫する国道 45 号線は、津波によって寸断されており、隣の沿岸集落へ行くにも一旦東北自動車道に戻り北上して沿岸の街へと、大きく迂回するルートをとる必要がありました。これらは当時「櫛の歯」作戦と呼ばれました。これらの「櫛の歯」は北上山地を東西に横断しています。これらの山々は侵食の進んだなだらかな山地を形成しており、地震の揺れが規模に比べてそれほど大きくなかったことから、地震発生から数日後には津波に襲われた沿岸部へ到達できました。

図 3.　東北地方の主要道路網。地震による損傷の少なかった東北自動車道は津波の影響もほとんどなく、地震翌日から速度制限をもうけて、通行可能となった。一方、沿岸部を走る国道 45 号線は津波により橋梁や路盤自体が流失し、長期間使用不能となった。完全復旧には 10 年の歳月を要しました。右図は少し拡大した四国の幹線国道。

一方、高知と瀬戸内を結ぶ高知自動車道、国道 32 号、33 号さらに国道 194 号、195 号と 197 号は急峻な四国山地の傾斜 45 度を超える斜面の山肌を開削して走る典型的な山岳道路です。かつて、豪雨で高知自動車道の一車線が斜面崩壊により橋梁ごと破壊されたことも記憶に新しいところです。ただ、大雨による事前の通行規制がかけられていた事と、もう一方の下り車線が別ルートとして造られていたために、全面通行止めにならなかったばかりでなく、一人の死傷者も出しませんでした。我が国の急峻な山岳の幹線道路の基本設計にとって、貴重な教訓を残すこととなりました。

四国には山岳道路ばかりでなく、海沿を走る国道 55 号、56 号がありますが、多くは津波で橋梁やトンネル出入り口のようなインフラごと消失していることも考えられます。

地震の規模や揺れの継続時間、その時の降雨条件にもよりますが、南海トラフ地震の後は東北の地震津波の時より、相当長期にわたって陸路を使っての救助や救援は難しくなると想像できます。特に連動型の巨大地震になった場合、高知では揺れや津波の被害が大きくなることだけではなく、西南日本の広域災害になる地震後の救援には長い時間がかかることを想定する必要があります。特に大阪、名古屋や東京なども被災地となりますので、迅速な救援活動はますます困難になるでしょう。

私たちはある程度の日数は自分たちで持ち応える覚悟が必要です。

中央東林業事務所森林土木担当に在籍して

高知県中央東林業事務所　森林土木課　主査　齊　藤　　翼

１．はじめに

私は、平成 30 年度に入庁し、最初の２年間は中央東林業事務所の振興課で保安林の許認可業務や県産材を利用した木製品に対する補助金業務等を担当し、その後、林業行政の部署から離れ、鳥獣対策課や自然共生課を経験し、令和６年度に再び、中央東林業事務所の振興課へ配属されました。

振興課で造林補助事業を担当し、１年かけて業務にも慣れ、知識も身についてきたところでしたが、令和７年度から森林土木課へ転属となりました。

これまで森林土木との関わりはありませんでしたが、早いうちに森林土木業務を経験しておきたいと考えていたため、前向きに捉えることができました。

２．森林土木課の業務について

前任者から引き継ぎを受けた業務は、これから契約するものや今後発注するものなどがあり、まず最初に行った業務は契約を締結した工事の受注者との施工計画の打ち合わせでしたが、土木用語が全く解からず、周りの話についていくことで精一杯な状況でした。

また、業務を進めていく中で、使用する積算システムや事業管理システム、CAD など、様々なシステムを習得する必要があり、各種研修を受講し、周囲の方に聞いてなんとか進めていますが、慣れるにはまだまだ時間が掛かりそうです。

さらに、担当する治山林道工事では ICT 施工や週休２日制の導入、情報共有システムなどクラウドによる書類の簡素化等の様々な新しい制度や取り組みがあり、その変化の早さに驚くとともに、常に勉強する姿勢が必要と感じています。

まだまだ分からないことは多々ありますが、上司や先輩に疑問点を質問すると考え方から根拠がどこにあるかまで丁寧に説明してくださるため、疑問点を解消しながら少しずつ進めていくことができています。

現場へ行った際にも、受注者や山林協会の方から技術的な基準や施工管理、施工方法などを教わり、様々な知識や技術の習得に繋がっています。

また、自分が経験不足ということもありますが、電話や図面だけでは現地の状況をイメージできず、受注者と話が噛み合わないことがあり、そのとき、上司からのアドバイスで「現場に足を運べ」とご指導頂き、現場を直接見て考えることで、理解できることもありました。

これからは現場に足を運び、自分の目で現場を確認する事を大切にして、業務に取り組み、一日も早く上司や先輩のように、受注者からの質問に適切に回答できるように日々、業務に精一杯務めていこうと思います。

３．過酷な長浜松林の草刈り

次に現在取り組んでいる業務を紹介すると高知市長浜の海岸沿いにある潮害防備保安林（0.515ha）のクロマツ林及び暴風垣などの整備があります。海岸沿いの松林は津波・高潮などの波のエネルギーを減殺するとともに、風速を緩和し塩害を防止するために配備しています。長浜では松食い虫によるクロマツの枯死や風倒被害により防潮林としての保安林機能の低下が確認され、平成 29 年度及び令和５年

度に補植（H29：4,233 本、R5：200 本）を行っています。

補植箇所の下刈りは今年の５月と７月に直営で実施しましたが、普段は事務所の机で座っているか担当現場で歩くことしかしていない私にとって、暑い中で腰を屈め手鎌を使っての作業は厳しく、音を上げていました。

一方、準備していた草刈り機を使っての作業は暑くてしんどいことに変わりありませんが、手鎌による作業と違ってあっという間に刈ることができるため、文明の利器に心底感謝しました。

写真１　下刈り前

自分の腰まである草むらの中で一心不乱に鎌を振る作業はなかなか骨が折れましたが、草刈り後にクロマツが日の光を目一杯浴びている様子を見て、早く大きくなって保安林機能を回復する事により、目的を達成できると考えれば自分の頑張りが報われた気がしました。

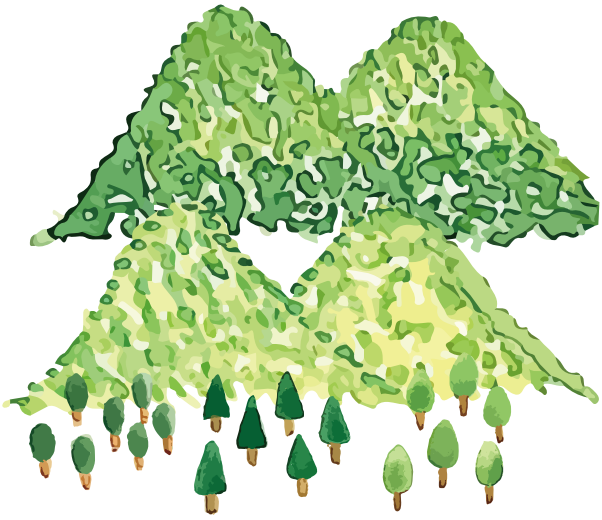
写真２　下刈り後

４．おわりに

私は、平成 30 年度に中央東林業事務所の振興課に在籍していたため、平成 30 年７月の豪雨災害時に森林土木課の先輩方の慌ただしい光景を見ていました。新聞やテレビなどで取り上げられていた大豊町内を走る高速道路の立川橋が落下し、崩壊地の早期復旧が急務となっていました。

写真３　平成 30 年７月豪雨時の被害の様子

近年、管内では大きな災害はありませんが、豪雨に見舞われると非常に忙しくなるといったイメージが森林土木課にはあります。今後、平成 10 年９月豪雨や平成 30 年７月豪雨のような災害がいつ起こるか分からないため、発災時に即戦力となれるように日々勉強して力をつけていきたいと思います。



令和７年度　民有林森林土木優良工事コンクール・林道維持管理コンクール・森林土木工事木材使用設計コンクールの審査について

審査委員長　高知県林業振興・環境部　治山林道課長　**中　屋　　貴**

一般社団法人高知県山林協会主催による令和７年度民有林森林土木優良工事等のコンクールの審査が、７月 16 日に行われました。

「森林土木優良工事コンクール」及び「森林土木工事木材使用設計コンクール」の対象は、令和６年度中に完成した契約金額が１千万円以上の森林土木工事（治山工事 60 件及び林道工事 55 件）です。

また、「林道維持管理コンクール」では、県内 975 路線のうち供用開始後３年以上が経過し、かつ延長が 2,000 m以上の路線が対象となっています。

この中で、各林業事務所から推薦のあった工事及び路線を厳正に審査した結果、

- **森林土木優良工事（治山の部）13 件**
- **森林土木優良工事（林道の部）６件**
- **林道維持管理１件**
- **森林土木工事木材使用設計（治山の部）３件**
- **森林土木工事木材使用設計（林道の部）１件**

計24件を入賞とし、表彰することに決定しました。

審査に当たって、「森林土木優良工事」部門では、出来栄えを重視しながら、施工技術や施工管理の適否、環境への配慮や周囲景観との調和等の観点から総合的に評価しました。

三ツ石林地荒廃防止施設災害復旧工事
「森林土木優良工事（治山の部）」

畑山仲木屋線１工区工事
「森林土木優良工事（林道の部）」

次に、「林道維持管理」部門では、林道が適正に維持管理されていることに加え、市町村や地域住民の皆さまの取組状況等を評価ポイントとして審査しました。

東津野城川線「林道維持管理」

そして、「森林土木工事木材使用設計」部門では、木材の利活用が間伐を推進し森林の公益的機能を高めるとともに、県内木材関連産業の振興にも寄与することから、木材を積極的に使用した工事を対象に審査しました。

別役復旧治山工事
「森林土木工事木材使用設計（治山の部）」

シバゴヤ線１工区工事
「森林土木工事木材使用設計（林道の部）」

受賞された皆さまには、改めてお喜びを申し上げますとともに、それぞれの部門での真摯な取組に対し、心から敬意を表します。

また、施工者の皆さまにおかれましては、今後とも、知識・技術の研鑽や施工方法の創意工夫、地域貢献等に努められて、工事を完遂していただきますようお願いします。

近年、気候変動の影響により、台風や前線に伴うゲリラ豪雨、線状降水帯の発生など災害リスクが格段に増加しています。

本県においても、本年、梅雨開け後の７月、８月に発生した豪雨により、山地や林道施設の災害が発生し、今後も台風等による被災が危惧されるところです。

また、昨年８月８日に日向灘で発生した地震に伴う初めての南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発表は記憶に新しいところですが、南海トラフ地震は近い将来に必ず起こると言われており、多くの山地災害の発生が予想されます。

こうした災害から、県土を保全し、県民の生命・財産を守るためには、治山対策をさらに進めていく必要があります。

一方、県の「産業振興計画」における林業分野の戦略の柱の１つである「森林資源の再生産の促進」のためには、森林施業の基盤となる林道の整備は必要不可欠です。

併せて、国道や県道等が災害により通行止めとなった際には、迂回路としての役割を果たす地域生活に欠かせない施設として、林道整備をさらに進めて行く必要があると考えています。

このように、森林土木事業は、県民の安心・安全や林業振興等の礎となる事業であり、県として、今後も全力で取り組んで参ります。

皆さまにおかれましても、森林土木事業等のインフラ整備を通じた地域住民の安全・安心の実現と、中山間地域の振興にご協力をお願いして、審査報告とさせていただきます。

民有林森林土木優良工事コンクール受賞者一覧（治山の部）

星越林地荒廃防止工事	有限会社　岩　城　組
小石川山流域保全総合治山工事	湯浅建設株式会社
三ツ石林地荒廃防止施設災害復旧工事	有限会社　山中建設
下桃原復旧治山工事	有限会社　サンロック
三谷復旧治山工事	株式会社　香川建設
中追災害関連緊急治山工事	尾崎建設有限会社
橋ヶ藪地すべり防止工事	株式会社　谷　渕　組
小申田災害関連緊急治山工事	株式会社　四国ネット
影野復旧治山工事	株式会社　生　田　組
太夫畑復旧治山工事	株式会社　谷　渕　組
神田復旧治山工事	有限会社　明　神　組
和田復旧治山工事	株式会社　小　島　組
芳ノ澤復旧治山工事	株式会社　伊与田組

民有林森林土木優良工事コンクール受賞者一覧（林道の部）

森林基幹道開設事業畑山仲木屋線１工区工事	有限会社　梶原建設
森林基幹道開設事業河口落合線１工区工事	有限会社　かがみ建設
森林基幹道開設事業奥大田三谷線３工区工事	有限会社　本山建設
森林基幹道開設事業土居柳野線１工区工事	株式会社　四国ネット
幹線林道開設事業上名・用居線１工区工事	株式会社　鉄建ブリッジ
幹線林道開設事業旭・天狗高原線１工区工事	株式会社　西森建設

民有林林道維持管理コンクール受賞者一覧

東津野城川線	梼原町

民有林森林土木工事木材使用設計コンクール受賞者一覧（治山の部）

別役復旧治山工事	（安芸林業事務所）	大野　光
野友緊急予防治山工事	（安芸林業事務所）	道原　大貴
橘山地災害防止（県営）工事	（中央西林業事務所）	松本　和泰

民有林森林土木工事木材使用設計コンクール受賞者一覧（林道の部）

森林管理道開設事業シバゴヤ線１工区工事	（中央西林業事務所）	秋田野乃夏

令和７年度(一社)高知県山林協会通常総会開催

一般社団法人高知県山林協会　総務部長　**吉　村　龍　男**

（一社）高知県山林協会の令和７年度通常総会が８月 26 日、「ザ　クラウンパレス新阪急高知」に於いて開催されました。

総会には、高知県から坂田林業振興・環境部長、中屋治山林道課長、林業事務所長、県議会から上田副議長、林野庁整備課から山田森林土木専門官、田中四国森林管理局長、（一社）日本治山治水協会・日本林道協会から小島総務部長、高知新聞社から塩見営業局長、高知県森林組合連合会戸田会長をはじめ友好団体の皆様、国政から、衆・参両国会議員の秘書の皆様など、大勢のご来賓にご臨席を賜り、会員（市町村･森林組合）39 名（うち代理出席 12 名）出席のもと開催されました。

開会にあたり和田会長から「本日、ここに令和７年度一般社団法人高知県山林協会の通常総会を開催しましたところ、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

挨拶する和田会長

昨年の通常総会は、非常にゆっくりとした速度で九州・四国地方を横断した台風 10 号の影響で、通常総会当日には暴風雨となることが予想され、やむなく開催を中止としました。関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたことを、この場をお借りしまして、お詫び申し上げます。

今年の梅雨は、全国的に平年より早く梅雨明けが宣言され、その後は昨年にも増して猛烈な暑さとなっております。

その一方で、今月初めには、前線が日本列島に停滞し、九州地方をはじめとする各地で線状降水帯が発生し、猛烈な豪雨となり、河川の決壊や氾濫、土砂崩れにより家屋や道路等へ甚大な被害が発生しました。

地震や豪雨等により災害が発生した折には、会員の皆様をはじめ関係機関からの要請に基づき、治山・林道・森林整備の専門家集団として、被災現場の速やかな復旧へと繋げていくためのお力添えをすることが、山林協会の使命と考えていますので、今後とも、当協会の事業活動にご理解を賜り、強いご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

では、ここから、総会議事に先立ちまして実施します表彰行事並びに令和６年度の決算状況についてご報告いたします。

本年度で 25 回目を迎えました「森や自然についての子ども達の作文コンクール」、県内外 58 の小中学校から 458 作品のご応募をいただきました。表彰を受けられます児童、生徒の皆様、「山の大賞」受賞、本当におめでとうございます。

作文に込められた「思い」、これからも大切に持ち続けていただきますよう、お願いいたします。

また、審査委員長の高知新聞社営業局長　塩見様を始め、審査委員の皆様には、貴重な時間を審査に費やし、すべての作品をご覧いただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

子ども達の作文

次に、「令和７年度民有林森林土木優良工事等」のコンクールでございます。

表彰を受けられます企業並びに林道管理者の皆様、本日は誠におめでとうございます。また、審査委員長の高知県治山林道課長　中屋様をはじめ、審査委員の皆様には大変お世話になりました。本席をお借りしまして、お礼申し上げます。

平素からの並々ならぬご努力に対し、深く敬意を表しますとともに、今後益々のご発展を祈念いたします。

優良工事

次に、令和６年度の決算状況であります。

一般社団法人への移行により、義務付けられております公益目的事業につきましては計画に即し、すべての事業を実行することができました。

また、収益事業であるコンサルタント業務では、県や市町村発注の治山・林道事業等の測量・設計・調査業務を順調に受注できましたことにより、一定の成果をあげることができました。

本席をお借りしまして厚くお礼申し上げます。総会議事では、令和６年度の事業報告及び収支決算、令和７年度の事業計画及び収支予算など、７件の議案をご提案させていただきますが、適切なご審議を賜りますよう、何卒、よろしくお願いをいたします。」との挨拶がありました。

続いて表彰式が行われ、森林の重要性や山村振興と森林整備事業の普及啓発を目的とした「森や自然についての子ども達の作文コンクール」の山の大賞（最優秀賞）の表彰では、受賞者６名のご家族の皆さんや先生方にもご参加いただき、大変和やかな表彰式となりました。

次に、民有林森林土木優良工事等コンクールの表彰式では、優良企業（17 社（19 件））と椿原町、県職員（４名）の方々が表彰されました。

総会開催にあたり、ご臨席いただいた坂田林業振興・環境部長、上田県議会副議長、林野庁整備課山田森林土木専門官、田中四国森林管理局長、（一社）日本治山治水協会・日本林道協会小島総務部長の皆様から、来賓を代表してご祝辞を賜り、休憩後、議事に入り、令和６年度事業報告及び収支決算、令和６年度公益目的支出計画実施報告書、令和７年度事業計画及び収支予算等全７議案が原案通り承認されました。

任期満了に伴う役員の改選は、平成 25 年から 12 年間、理事を務められた前四万十市長の中平正宏氏と平成 28 年から９年間、理事を務められた椿原町森林組合長の森山真二氏が退任され、新たに、いの町長の池田牧子氏と高知中央森林組合長の曽我 修氏が理事に新任、土佐清水市長の程岡 庸氏が監事に新任となり、その他の理事・監事の方々は重任されました。

７号議案では、次の事項が満場一致で決議され、関係各方面に要望活動を行うこととしました。

一．国土の保全と国民生活の安全を図る治山対策の積極的推進

一．森林の整備や中山間地域の活性化と生活環境の改善に必要な路網整備の積極的推進

一．森林・林業・木材産業振興策の積極的推進

一．第１次国土強靭化実施中期計画の着実な推進

総会終了後の懇親会には、総会にご臨席がかなわなかった、吉本林業振興・環境部副部長、竹﨑林業振興・環境部副部長、太郎田林業環境政策課長、中城森づくり推進課長、大野木材増産推進課長、市川治山林道課技査、東治山担当チーフ、弘瀬林道担当チーフ、谷本林地保全担当チーフにもご参会いただき、盛会裡に終了することができました。

最後になりましたが、本協会の令和７年度通常総会が会員の皆様のご理解、ご協力により無事終えることができましたことに、紙面をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

第25回　森や自然についての子ども達の作文コンクール

審査委員長講評

高知新聞社　営業局長　**塩　見　俊　久**

高知県山林協会の主催で 2001 年に始まった「森や自然についての子ども達の作文コンクール」は今年、25 回を迎えました。これもひとえに、多くの小中学生から毎年、作品をお送りいただいたおかげだと思います。作品を寄せていただきました方だけでなく、関係者の皆様の長年の取り組みに、心から敬意を表します。

節目となった今回は、小学生から 323 作品、中学生からは 135 作品の合計 458 の作品を県内外の方から応募いただきました。応募数は昨年に比べ 108 増と大幅に増えております。ご応募ありがとうございました。

応募いただいた作品をひとつずつ読んでいると、情景が浮かんできたりして、とても楽しませていただきました。一方でコンクールですので、賞を選ばなければならないという大きなプレッシャーも抱え、大いに悩んだ時間でもありました。

田植え、畑の周りにいる昆虫などの観察、タケノコ掘り、疑問を調べるための山登り、捕獲した昆虫や魚を飼育する様子、海や川、山など身近な自然について考える授業での学びの深さ、家族との思い出、山村留学で感じたことなど、作品を通じて一人ひとりの日常や貴重な体験が素直に伝わってきました。

今年は 6 月 27 日に四国地方は梅雨明けしたとみられるとの報道がありました。平年より 20 日早く、1951 年以降最も早い梅雨明け、期間も最短とのことです。この現象も、近年話題となっている気候変動の影響かもしれません。今回も温暖化など、地球環境について取り上げた作品が多くありました。特にごみのポイ捨てが山、川、海を問わず県内あらゆる場所で発生していることを知ることとなり、「少しぐらい」といった安易な思いが、自然環境の悪化の原因のひとつになっていると、改めて考えさせられる機会となりました。

東西に海岸線が長く、森林率 84％を誇る高知県には、豊かな自然が多くあります。だからこそ「自然があるのが当たり前」となりがちで、日常ではこの環境のありがたさを忘れてしまいます。応募いただいた皆さんが、それぞれの自然について感じていることを、今後の生活に生かしてもらいたいです。一人ひとりのその思いや行動が、必ず高知が持つ豊かな大自然を、次世代に残していくことにつながると確信しています。

来年もぜひ作品をお寄せください。心から、お待ちしております。

山の大賞（高知県山林協会長賞）

小学校の部

低学年の部

「しぜんいっぱいのおばあちゃん家」

高知市立小高坂小学校　二年　橋本（はしもと）　葵（あおい）

わたしは、しぜんいっぱいのおばあちゃん家がだいすきです。おばあちゃん家は山の中にあります。海はないけど山と川が近くにあります。

わたしは自分の家では、よくテレビを見ています。でも、おばあちゃん家ではほとんど外であそんでいます。この前は、はたけの玉ねぎをしゅうかくしました。玉ねぎのはっぱをもってぐっとひっぱると、土の中から玉ねぎがとれました。その時、ふわっと土のにおいがしました。あたたかくてやさしいにおいでした。

つぎに、えんどうをしゅうかくしました。ふくらんでいるのをえらんでとりました。ひらいてみると、えんどう豆がさやの中でおしくらまんじゅうをしているみたいにぎゅうぎゅうにならんでいました。みんな同じ大きさで小さくてかわいかったです。

しゅうかくがおわると家の前の川で川あそびをしました。そーっと足をつけると、びっくりするくらいつめたくて、

「ひやいー！」

と言いました。水がとうめいで水めんに顔を近づけると小さな魚がおよいでいるのが見えました。そうやってしぜんの中でいろんなことをしてあそんでいると、夕方になっていました。空がオレンジ色にかわって、少しさむくなって夜になることを教えてくれました。

おばあちゃん家ではあっという間に時間がすぎていくかんじがします。それは、しぜんの中には楽しいことがたくさんあってわたしをたいくつさせないからだと思いました。土のにおいもえんどう豆のかわいさも川の水の冷たさもわたしはしぜんの中で知りました。

テレビを見るのも楽しいけど、わたしはしぜんの中であそぶ方がもっと楽しいです。

またこんどおばあちゃん家に行く日が楽しみです。

コメント

山の中にあるおばあさんの家に行ったとき、テレビを見るより自然の中での体験をとても楽しんだことが伝わってきました。畑で玉ねぎを引き抜いた際の土のにおい、冷たい川に足を入れたときの驚きや魚が見える水のきれいさ、空の色が変わって夕方になる様子、楽しい時の時間の流れは速くなると感じたのでしょう。この夏も、おばあちゃんの家を楽しみましたか？

中学年の部

自然の音が聞こえる道

南国市立大篠小学校　三年　市川（いちかわ）　すず

今年の５月、家族でゆす原の「久保谷セラピーロード」に行きました。セラピーロードの入口のかん板には「森音・水音・風音が聞こえるせせらぎ回廊」と書いていました。私は、どんな声が聞こえるかワクワクしました。

国道から階段を上るとセラピーロードの始まりです。そこには、緑色の世界が広がっていて、私は森によばれているような感じがしました。空を見上げると木の葉が緑のトンネルを作り、地面は草やコケが生えています。

日が当たる所は葉っぱが黄緑色をしていて、葉っぱが風にそよそよとゆれるけ色はとてもきれいでした。また､道の下の方から｢ごぉーごぉー｣と川の流れる音がします。森の中からは｢ピピピキー｣と鳥の高い声も聞こえてきます。そして、風が吹くと木がゆれ「そよそよ」と心地よい音や風を運んでくれます。

「空気がしっとりしていて本当おいしいね。」

「水路の水が鏡みたいになって水面も緑色や。」

「カエルが岩の色しちゅう。」

「あ、こっちにはカニおるで。」

「滝の近くになると涼しい風がくるね。」

「自然のクーラーや！生き返る。」

と家族みんなが自然の音を感じ、たくさん会話しながら歩きました。いっぱい歩いたけど楽しくて全然つかれません。逆にパワーをもらいました。大篠では、こんなに自然の音が聞こえてくることはないので、本当にかん板の通り自然の音が聞こえる道だと思いました。

そして、私は歩いている時にゴミが一つも落ちていないことにびっくりしました。家で調べてみると、地元の人が毎日道をきれいにしてくれていることを知りました。雨上がりの日には小石を拾って歩きやすいようにしてくれているそうです。私は、その人たちのおかげで自然の音を楽しめて、たくさんの元気をもらうことができたのだと思いました。また、自然の音を聞きにゆす原に行きたいです。

コメント

入口に「森音、水音、風音がきこえるせせらぎ回廊」の看板がかかる梼原町の久保谷セラピーロードに訪れたことが書かれてあります。セラピーロードに入ると緑のトンネルに当たる光加減で緑が変化するのに気づく、川に流れる水の音、鳥の鳴き声にも注意を払う、五感で自然を楽しんでいる様子が伝わってきます。自然のパワーを感じるとともに、この歩道を管理している地元の人たちへの感謝の気持ちもすばらしいです。

中学年の部

「命も自然」

須崎市立多ノ郷小学校　四年　矢野（やの）　みらい

2024年7月7日、私は七夕の日に家族みんなで家の庭で星を眺めながら食事をしました。短冊を飾り、毎年きれいな星空を見ています。見るたびに「今年が一番きれいな星空やなぁ」と思います。七夕の日はいつもリラックスできる時間で、嫌なことも忘れてしまいます。

食事が終わると、私は冷たい地面に寝ころんで星空を見ました。星が空いっぱいに広がっていて、まるで宙に浮かび星空に包まれるような気持ちになりました。そんな中、星より大きく黄色く光る一つの光を見つけました。星とは違い、その光は動いていました。

お母さんが光を手の中に捕まえて見せてくれました。お母さんの指の間から、眩しい光がこぼれています。よく見ると、それはホタルでした。夜空の暗さもあってか、とても輝いて見えました。私は人生でホタルを一度も見たことがなく、その美しさに感動しました。

ホタルは静かできれいな水辺を好み、私の家の近くの小さな川にいるのだと思いました。周りに街灯がないため、ホタルが住みやすい場所です。おばあちゃんが育てている庭の植物に飛んできたのかもしれません。川には小さな魚やエビもいて、何度も遊んでいたのにホタルがいることに気づきませんでした。

（命も自然なのかな？）と思いました。川や植物、森は自然で、そこに住む生き物も自然の一部です。生態系はさまざまな生き物がお互いに影響し合いながらバランスを保っていて、その自然の中に生きる人間もその一部だと思いました。

人間も森や自然の近くに住んでいます。虫を見つけることは、虫と同じ場所に住んでいることのあらわれだと思います。生き物すべてが自然であり、命あるものもすべて自然の一部です。生き物が住む場所もすべて自然なのだと改めて感じました。

コメント

2024年の七夕の日に、冷たい地面に寝転がり星を眺めていると、星より大きく黄色に光り動く光を見つけた。それが初めて見たホタルであると気づいた驚きと、その美しさに心動いた様子が伝わりました。ホタルの生育場所を考えることで、川や植物、森だけでなく、人間を含め生き物もお互いに影響しあいながらバランスをとっている、命あるものすべて自然の一部であるとの気づきが印象的でした。

高学年の部

守りたい地域の自然

高知市立義務教育学校土佐山学舎　五年　北野羽海（きたのうみ）

私の学校がある地域は、土佐山というところです。自然豊かな場所で春は桜が咲きほこり、夏は鏡川で涼み、秋はヒガンバナの絶景を見ることができ、冬は美しい梅がたくさん咲いています。ユズや生姜、梅などたくさんの特産品、やまんばの滝や、ゴトゴト石という岩などもあります。初めてここに来てから５年間ずっと、この美しい自然を残したいなと思っていました。

この自然を守るために、たくさんの人たちに土佐山の良いところを知ってもらい、自然はかいを防止してもらえるように私達は商品開発を進めています。３年生のころは土佐山にある会社の方に協力してもらい、ユズとわかめを使ったスープを作りました。３つの味を作り、一番人気があった味を販売しました。４年生のころには奈良県の会社の方に協力してもらい、ユズと昆布を使ったあめを開発しました。リモートで私達の熱い気持ちを一人一人伝え、どのような味にしてほしいか話しました。

そして今年は高知市内にある和菓子屋さんに協力してもらい、ユズを使った和菓子の開発を進めています。その和菓子屋さんの方に、プレゼンで土佐山の良いところやこれまでの課題を伝え協力してくださるようお願いしました。

これまでに販売した際には、スープもあめも完売したので、和菓子は、もっと土佐山を知ってくださるような商品にしたいです。この商品が土佐山の鏡になるようにがんばります。

このように、私達の学校はこの自然豊かな土佐山の良さを広めるためにたくさんの工夫をしています。私達だけでなく、地域の方々も土佐山の自然を残そうとユズや梅などの特産品を作り、広める活動をしてくれています。また、私達の活動をずっと優しく見守ってくださっています。地域の方々が守りたいこの自然に、恩返しできるようにしたいです。

コメント

土佐山のいいところを知ってもらうために、特産品のユズを使い、継続的に商品開発に取り組んでいることがよく分かりました。３年生の時にはスープ、４年生では飴を、協力してくれた企業に、どんな味にしたいかなど熱意をもって伝え、開発されたいずれも商品は完売したとのこと。実現までの苦労も感じられ、貴重な経験もできたことでしょう。今年取り組んでいる和菓子も、無事に完成し完売することで、土佐山の魅力がより知られることをお祈りしています。

中学校の部

だるま夕日

土佐塾中学校　一年　澤田美怜（さわだみれい）

夕日が海に反射する。きらきら輝く、橙々の海のじゅうたんの上に赤とオレンジのだるまがのっかっているようだ。

まだ小学生のころ、友達と公園でキャンプをした。みんなで遊んでいると、時が過ぎ、同時に空の色も、水色から、オレンジに赤にと表情を変えていった。この時間帯は、お別れを告げられるような感覚になり、さみしい色だなとも思った。夕日を見るたびに、「次、いつ遊べるかな。」とか、静かな空間、時間だからこそ、様々な悩みごとも不意に浮かぶ。「またこうやって、みんなで一緒にこの景色が見れるといいな。」そう思った。

それから時が過ぎ、ふと夕日を見たとき、友達と楽しく遊んだ幼いころのなつかしさがそのまま映っているように感じた。思い出の色だ。今、思い返すとあの景色は、あの時、あの場所ならではの幻想的で美しいものだった。

そもそも、私が今暮らしている高知の良さってなんだろう。都会とは違ったたくさんの良さがある。高知は、全国の中でも森林が多い場所だ。そして、のびのび過ごすことができる、空気のおいしい自分のお気に入りの場所。「母なる大地」とよく言うが、大自然は、まるで親のように大きく、私たちの生活を支えてくれる存在だと思う。

「高知っていいな……。」と思えるようなふるさとを保つには、様々な行動を起こすのも一つだが、まず自分達の意識をかえなければならないと感じた。「子供だから親に任せとけばいいよね。」とか、「自分には関係ない。他の人がやってくれる。」という思いこみで、無意識に、無関心に過ごしていないだろうか。その積み重ねが問題を大きくしているのではないか。そう考えた。

でも、「自分の意識をかえよう」などと、口では簡単に言えてもその言葉の意味は深く、難しく考えてしまい、とらわれて行動できなくなってしまう。

植物を植えたりするのもいい。食べ物を必要な分だけ買うようにしてもいい。文房具を最後まで使い切るなど、すぐ物を捨てず大切に使うのもいい。考えるだけでは何も始まらないから、まずは、身近なこと、小さなことから始めてみようと思った。実際に、最近は特に物を最後まで使いきろうと心がけている。少しずつでも地球に貢献していきたい。

そして、きれいな海にうかんだきれいなオレンジ色のだるま夕日をみんなで見続けられたらいい。そう、私が、おとなになって、私の子供や孫がおとなになって、その先もずっとずっと、この美しい景色が残ってほしいから。

しかし、こんな平和な風景の一方で、学校の授業やテレビのニュースで世界的な大問題を耳にし、目にすることも増えた。それは、「地球温暖化」というものだった。森林の伐採、食品ロス、様々な問題が原因で、二酸化炭素の排出による地球温暖化の深刻化が進み、生物が生きづらくなるような環境に変わり始めている。だから、私達は慎重かつ冷静に、現実と向き合っていかなければならないのだ。

私は、これからも、だるま夕日が映る美しい海を見たい。そのためにもこの自然が美しいまま続いてほしい。そう願っている。

コメント

「高知っていいな……」と思えるふるさとを保つためには、他人任せではなく、自分の意識を変えることが必要だし、物を捨てずに大切に使うなど、自身が行動することで地球に貢献したいという強い気持ちが表現されています。今後も、小学校のころにキャンプで見た、幻想的で美しいだるま夕日がみられるよう、地球環境の変化という現実に向き合っていただきたいです。

中学校の部

「自然の歌声」

高知県立高知国際中学校　三年　猪原羽未（いはらうみ）

私は、「うみ」という名前にも関わらず、この年になっても一度も海水浴を体験したことがない。なぜなら、毒をもっている生物に刺される心配をすることと全身の海水を洗い落とすことがとても面倒だからだ。

そんな理由から、私達家族は今年も行きつけの鏡川へ涼を取りに向かう。そこは支流に近く、人気がない穴場だった。

その日はとても暑かったが、天気の良い川遊び日和だった。お昼前に行って父と母が作ったお弁当を頬張ってから、例年通り家族と燦々たる太陽の下で、水の掛け合いや水泳競争をし、疲れたら水の上に浮きながら漫然と過ごしていた。水の上から見る景色は、水彩絵の具を溶かしたような透き通った空の中で太陽がまばゆい光を水に反射させ、それに鼓舞された植物たちが青々とした葉を揺らす。

そんないかにも「夏」という一枚の絵画のようだった。

突然だが、私はいつもこの時間に感じることがあった。川の水に全身を浸けながらプカプカ浮いていると、自分もその川の一部になっている感覚に陥るのだ。耳を水につけているせいか、水の流れる音と自分の心臓の音が混ざり合いながら聞こえる。自分と川が混ざり合って解かされる感覚ともいえる。それは、川に身も心も包みこまれているようでとても心地よいものだ。ただ同時に、自分が川に溶けきって誰にも見つけてもらえなくなるような、存在を忘れ去られてしまうような少しの不安感も抱く。そんな不思議な感覚がある。

おそらく、それは「自然の歌声」のせいだろう。少しこじんまりした川では、人も少なく、セミのじんわり暑さを感じさせる声やカジカガエルの澄んだ笛のような声、川のせせらぎなどのハーモニーが川中に響き渡り、私の鼓膜を震わせる。まるでコンサートホールのような空間なのだ。この音を聞く時、毎回のことながら私は自然の壮大さを思い知らされる。私はそんなハーモニーを敬意を払って「自然の歌声」と呼んでいる。そんな「自然の歌声」は、課題で追われる日々、まだ揺らいでいる進路の方向性、近頃行き詰まっている習い事の苦悩を洗い流してくれる。心を清められている感覚に近い。

もちろん、周りに人がいる騒がしく忙しい今はとても充実感があって好きだ。しかし、たまにはそんな日々から一歩引いて「自然の歌声」に耳を澄ませ、ただ流れる時を過ごすのも悪くない。私はこの、神秘的ともいえる感覚と時間が好きだ。

あの感覚を求めて私は来年も、その次も川を離れることができないのだろう。

コメント

川に遊びに行き、水にプカプカ浮く気持ちよさ、共感いたします。作品の中で「セミのじんわり暑さを感じさせる声やカジカガエルの澄んだ笛のような声、川のせせらぎなどのハーモニーが川中に響き渡り、私の鼓膜を震わせる」との表現が、猪原さんのいう自然の壮大さを想起させられました。長い人生の中でさまざまな困難に直面すると思いますが、そんな時こそ「自然の歌声」に耳を澄ましてもらいたいです。

テクノ　ア・ラ・カルト

―身近なテクノ（左脳　右脳）―

一般社団法人日本森林技術協会　高知事務所長　**長　澤　佳　暁**

1　老化について

歳（年）をとるに従い現れる「老化」は自然現象なので、「防ぐ」より「抑止」の観点で対応することになります。中でも脳の老化抑止は、最優先の抑止対象です。その方法は？というと、日常的に「脳を使うこと＝回転させること」で、脳トレ事例はいくつもあります。

NHK「あんぱん」に出てきた「高知新報（新聞）」にも、「毎日脳トレ」と称して数種類のパズルのパターンが連載されています。また、JAL などの機内誌には同じ（数か所違う）絵を並べ違う箇所数を探すページがあり、違う箇所の答えを見て「なんだ…」とボヤク頃には九十九里浜が眼下に広がります。視認による脳トレのほか、手先を動かすことも脳の活性化に繋がるとされています。一例は、高齢者がピアノを弾くことも脳の老化予防に効果的とのこと。

さて、最近読んだ随筆集からです。

「老年（1981 年）」（小堀杏奴）より

次の質問で、肯定数が多いほど老化現象が進んでいるとしています。

①最近物事について忘れっぽいか
②急ぐ仕事をしなければならない時、神経質になるか
③自己中心的であるか
④過去のことをとうとうとおしゃべりするか
⑤愚痴っぽいか
⑥自分の目の前で話されることをあまり気に留めないか
⑦自分の生活をわずらわされるのを好まないか
⑧新しい仕事を学ぶのはむずかしいか
⑨異常な騒々しさに対して神経質か
⑩他人とつきあうのに臆病か
⑪社会の変化に対して疑り深いか
⑫自分自身の感情にひどく関心をもつか
⑬過去の、特に自分の苦労話をよくしゃべるか
⑭計画を変更することはむつかしいか
⑮つまらぬクズのコレクションをするか

この随筆には、『六十歳で亡くなった父鴎外（お父さんは森鴎外だったの！）を頭に浮かべつつこのテストを（筆者が）やるとすべて否定の答えが出た。

―（略）―　父は毛筋ほどの老化現象も認められず、少なくとも精神面ではみずみずしい青年のまま死んでいったのである。』（（　）は長澤が追記）とあります。

15 の項目は、老化テストというより「人生訓の項目チェック」ともいえます。人生を構成する一つが「老化」なので、「人生訓」と重複するのは当然ですが…。いずれにしても、脳の老化や人生訓の習得度は個人差が大きいことが「森鴎外」の例が象徴しています。

2　左脳、右脳

「脳の老化」とは、脳の機能低下ともいえます。脳の機能について、左脳、右脳別に AI で調べました。

脳の左脳と右脳は相互に異なった得意分野があり（右図）、左右の脳の特質は以下のようになっています。

○左右の脳はそれぞれ独立して働くのではなく、互いに連携して働く。

○例えば、言語を理解する際には、まず右脳で言葉の意味を理解し、次に左脳で文法や構造を分析するといったように、両方の脳が協力。

○また、右脳と左脳のバランスが重要であり、どちらか一方に偏りすぎると、心身の不調につながる可能性がある。

この左脳・右脳に関して、最近ある情報に接しました。

秋葉原といえば、以前は電気部品の店が肩寄せあう街でしたが、近年の再開発により大型量販店やゲーム店などが増えて様変わりです。ただ、賑わう街通りから離れるとかつての電気街の風情が残っていて、その一つが真空管などを扱う店「（株）アムトランス」（次ページ左欄上段の写真）です。

先客の青年が帰った後、一人となった店内を見回すとソファの向こうには真空管アンプが 30 リッターの箱に入った 20cm 径のスピーカでジャズを鳴

らしていると思いきや、たかだか８cm 径のスピーカ（右下）からです。

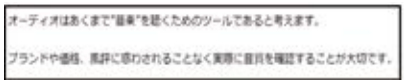
自然な響きの中に径８cm とは思えないダイナミックさがあると感心していると、店の社長さん（本ページ下のイラスト：上の写真も店のホームページから引用）が声をかけてきました。

社長さんとのオーディオ談義が始まります。彼の説明では「この８cm 径のスピーカは、ジョーダンワッツ（1970 年代の英国のアルミコーンのスピーカユニット、当時のオーディオ評論家は絶賛。右上の黄色枠写真）の流れを汲みます。」とのこと。それなら、納得！です。

続いて真空管の話題に。「真空管に関しては、製造国の音がする。英国製の真空管はモヤァーとしておとなしいが芯がある、ドイツ製はガッチリとして、中国製は饒舌傾向である。中国は情報を収集して即時に大量に製造するのは偉い。」

次にパソコン等によるネットオーディオの話題に。「小学校ではパソコンは一人１台で、かつ AI によるカリキュラムも結構取り入れられているとか。」と私。「そのパソコンですよ！」と社長。

「パソコンの画面は液晶すなわち透過光による映像です。その透過光による映像から伝わる情報に頼りすぎていると、左脳の発達が阻害されるとのこと。都内の小学校ではパソコンによる授業の３割（？私の記憶では）をパソコンを使わない授業に切り替えたらしいです。また、出版業の人も、印刷原稿作成はワードプロセッサですが、最終チェックは紙にプリントしてチェックします。左脳による論理的視点が印刷最終段階では重要であると認識している証拠です。」



３　情報伝達が論理的思考に及ぼす影響

社長さんとの話で、象徴的故に印象に残ったのが『透過光（テレビやスマホ、パソコンなど）による情報伝達では左脳は使われなくなる』です。

左脳と透過光との関係を、身近なデジタル写真を例に推察してみます。

デジタル写真は、パソコンの画面（透過光）で見るのが一般的ですが、私はプリントした写真のほうが液晶画面よりその場の雰囲気やカメラのレンズによる色の微妙ながら明白な違いが感じられます。

この観点で思考してみました。①反射光の一方通行的情報伝達と②反射光による情報伝達が脳にどう伝わるかを単純に表したのが右図です。②の場合は「見て、分析しよう」とする意思が脳に発生します。この意識しない意思が①より多い情報量として左脳に入力され、結果として左脳の機能充実、換言すれば論理的思考に寄与するのでは？と考えます。

４　左脳・右脳のバランスを取る

小学生に限らず、左右脳領域のバランスをとることは重要です。この観点で、授業でのパソコンの使用割合を減らしたのかもしれません。

透過光による情報が日常生活を占め、更に透過光以外に AI 活用頻度が増えています。この現状では左脳は右脳より機能が劣っていくのは当然です。その対応例をネットで調べた内容は、次のとおりです。

①右脳を鍛えるには、音楽を聴いたり、絵を描いたり、空間認識ゲームなどが効果的。

②左脳を鍛えるには、読書をしたり、計算問題を解いたり、言語学習などが効果的。

③また、両方の脳をバランスよく使うためには、新しいことに挑戦したり様々な経験を積むことが大切。

特に、新たな発想が必須な領域（例えば、調査・測量・設計の業務　ほか）での業務処理においては、

◎透過光による情報取得割合を減らすこと

◎上記の減らした分、書籍等からの情報取得割合を増やすこと…更に、追加すると

◎ AI 活用形態に応じて「問答法」を意識すること

これらを「暗黙知」として意識すべきでないでしょうか。

（「暗黙知」、「問答法」は次号で考察の予定）

県立甫喜ヶ峰森林公園から

指定管理者　一般社団法人高知県山林協会　川　渕　しのぶ

甫喜ヶ峰の季節の移ろい

秋から冬へのシーズン、甫喜ヶ峰の森は緑から黄色そして赤へ変化し、雪の白へと季節の移り変わりを色で感じます。特に展示館裏の花木の森は、例年（年によって違ってきますが）11 月中旬から 12 月上旬にかけて、鮮やかな赤に染まります。

紅葉も最初のうちは、赤、オレンジ、黄色、緑と色々な色が混ざり合い綺麗なグラデーションを見せ､そして次第に真っ赤な森へと変化していきます。

足元も落ち葉で赤く染まります。視覚だけでなく、落ち葉を踏むとザクザクという心地よい音とフカフカの感触が、心と身体をリラックスさせてくれます。

そして見上げると、紅葉と光が洪水のように入り混じってまるで異次元の世界！（ちょっと言い過ぎですね。）青空に赤い紅葉、色鮮やかな森の中で現実を忘れてしまいそうになります。

紅葉は花木の森だけではありません。記念の森のドウダンツツジも鮮やかな赤になります。杉の緑とのコントラストがクリスマス飾りのようで素敵です。

そして白い冬がやってきます。今年はどんな冬になるのでしょう？雪の甫喜ヶ峰も綺麗ですが、通勤を考えるとあまり降ってほしくないような…暑い夏も大変ですが、あまりに寒いのもいやですよね。個人的には写真のような日が少ないことを期待しています。

恒例のイベント開催します

今年も恒例の「甫喜ヶ峰フェスティバル 2025」を 11 月 9 日（日）に開催します！大雨や大風に悩まされる年もありましたが、今年はカラッとして気持ちの良いお天気になるよう願いながら準備を進めている所です。

そして冬になると、これまた恒例になりました「mini Trail Jamboree in 甫喜ヶ峰 2025」を 12 月 14 日（日）に開催します。毎年、未就学の子どもさんから健脚自慢の大人の方まで、苦しくとも楽しそうに山の中を疾走してくださっています。毎年思う事ですが、完走した後の皆さんのお顔がすがすがしい！上位入賞者には景品もありますので、我こそは！という方、ご参加待っています！

昨年の甫喜ヶ峰フェスティバルのようす

昨年の mini Trail Jamboree in 甫喜ヶ峰のようす

甫喜ヶ峰フェスティバル 2025

イベント情報

日　時：11月9日(日)
（小雨決行）
時　間：10時～14時
対　象：どなたでも
参加費：各ブースにてお支払いください。
（無料のブースもあります。）

mini Trail Jamboree in 甫喜ヶ峰 2025

日　時：12月14日(日)(小雨決行)
時　間：9時30分～14時(受付開始8時)
【申込締切　11月10日(月)】
定　員：6km【70人】
◎リレー【男子・女子・混合・親子約2km】
【各コース3人×4チーム】
◎キッズA－1(小学1～3年約1km)
【20人】
◎キッズA－2(小学4～6年約1km)
【20人】
◎キッズB(未就学児約200m)
【30名】
参加費：6km【3,000円】
◎リレー【3,000円/1チーム】
◎キッズA－1・A－2【1,500円】

申し込みお問合せ
甫喜ヶ峰森林公園管理事務所
TEL：0887-57-9007
E-mail：hoki@kochi-sanrin.jp
HP：https://hokigamine.jp

（一社）高知県山林協会新人職員紹介

業務課　治山第二班　技術員
丸岡菜月（まるおか　な　つき）

高知市出身
1994 年生
広島工業大学卒
趣　　味：クレー射撃
コメント：製造業から来ました丸岡と申します。業務としての測量は初めてなので、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、少しでも早く戦力になれるよう頑張ります。先輩方のように急斜面も上がっていける測量士を目指していきますので、ご指導のほどよろしくお願いします。

営業管理課　事務員
山中結可（やまなか　ゆう　か）

高知市出身
1985 年生
高知丸の内高等学校卒
趣　　味：アウトドア
コメント：8月から入社しました山中と申します。まだ、不慣れな点も多く皆様にご迷惑おかけすることもあるかもしれませんが、できる限り早く皆様のお役に立てるよう努めてまいります。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

動　向

令和８年度林野庁公共事業予算概算要求

令和８年度の林野庁公共事業予算概算要求額は、一般公共事業費で 222,425 百万円（対前年度比 118.3%）となった。治山事業費は、豪雨や地震等に起因する山地災害から国民の生命・財産を守るため、能登半島の複合災害等の教訓を踏まえて短期間により多くの箇所で安全性を向上させる応急対策を強化するとともに、施工性の高い工種・工法の導入促進など、効率的かつ効果的な国土強靱化に向けた取り組みを推進するとして 73,882 百万円 (対前年度比 118.3%) となった。森林整備事業費は、森林吸収源の機能強化、林野火災対策を含む国土強靱化、森林の集積・集約化の加速化に向けた間伐、主伐後の再造林、幹線となる林道の開設・改良等の推進に加え、花粉発生源対策として伐採・植替え、路網整備等を推進するとして 148,543 百万円（対前年度比 118.3%）となっている。

（一社）高知県山林協会通常総会開催

山林協会は、令和７年度通常総会を８月 26 日ザ　クラウンパレス新阪急高知で開催した。総会では令和６年度事業報告及び収支決算、令和６年度公益目的支出実施報告、令和７年度事業計画及び収支予算等、全７議案が原案のとおり承認された。

また、任期満了に伴う役員改選では中平正宏、森山真二両理事が退任され、新しく池田牧子いの町長（前監事）、曽我修高知中央森林組合長が新しく理事に、程岡庸土佐清水市長が新しく監事に就任され、その他の理事・監事の方々は再任された。

その後の理事会において、和田守也土佐町長が会長理事として、また小田保行越知町長が副会長理事に、二宮栄一理事が副会長兼専務理事に、永野俊彦理事が常務理事に就任された。

本協会の令和７年度通常総会が会員の皆様のご理解、ご協力により無事終えることができたことに、紙面をお借りして厚くお礼を申し上げる。

（一社）高知県山林協会役員名簿　令和７年８月 26 日

会　長　理　事	和田　守也	土佐町長
副 会 長 理 事	小田　保行	越知町長
副 会 長 兼 専 務 理 事	二宮　栄一	正会員以外
常　務　理　事	永野　俊彦	正会員以外
理　　事	上村　　誠	北川村長
理　　事	山﨑　　出	馬路村長
理　　事	依光晃一郎	香美市長
理　　事	池田　牧子	いの町長
理　　事	曽我　　修	高知中央森林組合長
理　　事	池田　三男	津野町長
理　　事	岡田　順一	大月町長
監　　事	中尾　博憲	四万十町長
監　　事	程岡　　庸	土佐清水市長

表 紙 写 真

撮 影 場 所　津野町　提供
【津野町役場　新庁舎】

「森のテクノ」表紙の写真を
募集しています。

日　　程

10 月 16・17 日	全国治山林道協会長会議（兵庫県）
11 月 1 ・ 2 日	もくもくエコランド 2025 －第 8 回森林環境学習フェアー（高知市）
11 月　3 日	第 26 回治山・林道・体験ツアー（椿原町）
11 月　9 日	甫喜ヶ峰フェスティバル 2025（甫喜ヶ峰森林公園）
11 月 19 日	令和 7 年度日本林道協会総会（東京都）
	2025 治山・林道のつどい、治山林道コンクール表彰式（東京都）
	日本林道協会創立 75 周年記念講演会
12 月中旬	林野公共事業推進本部設置（東京都）

森のテクノ〈No. 109〉2025年10月15日発刊
発　行　一般社団法人高知県山林協会
〒780-0046　高知市伊勢崎町8番24号　TEL 088-822-5331　FAX 088-875-7191
https://www.kochi-sanrin.jp/